

週日の説教

金 大烈 神父 2008年10月7日(火)

《沈黙の世界》

今日は、福音に入る前に答唱詩編(詩編139)について分かち合いたいと思います。

「神のはからは限りなく、生涯私はその中に生きる。」神様は、私たちの全てをよくご存知であることを意識しなければなりません。もし私達が、この意識の中に生きることができれば、犯す必要のない罪を避けることが出来るのではないかと思います。また逆に、この意識の中に生きていないから、いろいろな誘惑に負けてしまうのではないのでしょうか。

「神よ、あなたは私を心にかけて、私の全てを知っておられる。私が座るのも立つのも知り、遠くから私の思いを見通される。」易しくいえば、逃げ場がないということです。孫悟空という中国の小説がありますね。猿の孫悟空がどこまで逃げようとしてもやはり仏陀の手の中にいる、という物語です。そのような意味の言葉だと思います。隠れて、隠れて、イエス様にわからないようにしようと思っても、良心が泣いてしまう。その泣き声は、現実には自分の心から生じるものなのですが、結局のところはイエス様の泣き声なのではないのでしょうか。

「あなたはわたしの体を造り、母の胎内で私を形造られた。」自分の性格も自分の弱さも結局は神様によって治められるものであることを意識すべきだということです。

「私を作られたあなたの技は不思議。」考えてみると不思議でないものは一つもないのが私たちの人生ではないのでしょうか。振り返ってみれば全て恵みでした、という気持ちになると思います。

「私は心からその偉大な技をたたえる。」私たちは最後にいろいろなことを神様に答え、質問し、願います。けれども、それらの最後に私たちの口から出されるのは、「あなたをほめたたえます」という祈りになると思います。

たくさんの人々が同じ信仰をもって歩んでいますが、ここまで行かずに中途半端になってしまう場合も多いのではないのでしょうか。

結局、私たちが天国での神様との暮らしを笑顔で喜びを持って迎えるためには、最後にこのような告白のことができることが何よりも必要なのではないかと思います。「私はあなたをたたえます」、という心が信仰の一番素晴らしい実りではないのでしょうか。

ただ一つの詩編なのですが、私たちが振り返ってみるよい言葉になると思いました。

福音(ルカ 10・38 - 42)は、この前にもお話ししたマルタとマリアについてなので、一つだけ考えてみたいと思います。

「必要なことはただ一つだけである。マリアは良いほうを選んだ。」というイエス様の言葉がありますね。全生涯に渡って必要なものを一つだけ選びなさいとイエス様に言われたら、皆様は何を選びますか。ある意味では、これが信仰につながるものです。いろいろあると思いますが、それらを全部まとめる言葉はなんのでしょうか。それは『救い』です。どのような形の『救い』になるかわかりませんが、結局私たちが最後にいただくとするのは『救い』です。その必要な救いのために何をすべきか考えていけば、道はずれることを避けられるのではないかと思います。そして、そういう意味で、イエス様はマリアのことを「よいほうを選んだ」とおっしゃったのではないのでしょうか。

口のうるさい人がいます。私も仕事柄、ミサの中ではいろいろ喋ります。たくさん喋ると疲れます。自分が疲れるだけではなく、周りの人も疲れます。しかし、口はうるさくても心は絶対にうるさくならないようにしなければなりません。よく話し合ってみると、心のうるさい人はすぐに分かります。心がうるさいとよく見えなくなります。正しいことが見えません。そのような心では、正しく見ることができません。正しいものを求めようと思ったら、時々、静かな時間や空間を持たないといけませ

ん。それが祈りではないかと思います。

沈黙は、言葉がないものを意味するものではありません。ある意味、もっとも重い、意味深い言葉で満たされた世界を沈黙と言います。音を出さないことではなく、一番必要な音できれいに満たされていくことが沈黙だと思います。この沈黙の祈りの中で、もし自分を正しく見ることができれば、正しい道を求められるでしょう。

ありがとうございました。